

「わたしたちの図書館をつくろう！」

和歌山県 那智勝浦町立下里中学校

基本データ

所在地 東牟婁郡那智勝浦町下里
480
児童生徒数 76人
教職員数 14人
蔵書数 5,992冊
年間貸出冊数 358冊

テーマ・活動のねらい等

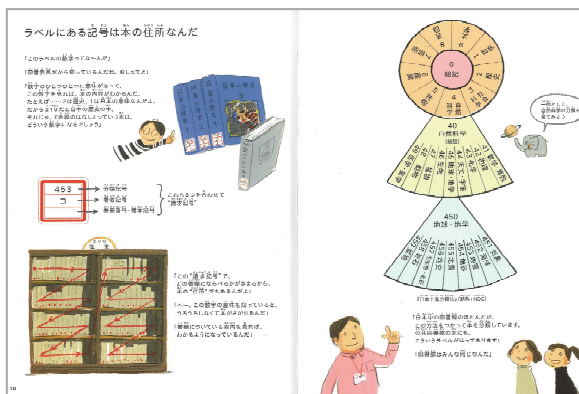
【テーマ】情報活用能力の育成、情報機器の活用

【活動のねらい】

- 小学校で学習した十進分類法による分類について理解を深め、学校図書館に、より親しみを持ち、図書館を活用できるようになる。
- 目次や索引を使って調べたいことを絞り込む技術を身に付けることで、より効果的な調べ方ができるようになる。
- 一般的な分類法を知っておくことで、将来にわたって公共図書館等の図書館施設を利用する際にも活用できる力を身に付ける。

取組・活動の概要

- 「わたしたちの図書館をつくろう！」の活動は図書館オリエンテーションの一環として実施した活動である。入学した1年生、進級した2年生を対象に1学期に行った。



図書館オリエンテーションの資料
(参考文献『シリーズわくわく図書館 図書館ってどんなところ』紺野順子 著、2010年、アリス館)

- 特別活動の時間を活用して、出されたテーマに沿って十進分類法に則った本を全ての領域でそろえる活動である。
- テーマ・カードには「にこにこ図書館」「わくわく図書館」「まったり図書館」「感動図書館」等の名称があり、そのテーマに沿ってグループで協議しながら選書していく。
- 前半部分では学校司書から分類の方法や意義について説明を受け、本を利用する際の基礎知識として、「目次」「索引」の重要性について学ぶ。グループで1分類1冊ずつ、10種類の本を選んだ後、それぞれのグループで完成した図

書館について協議・交流する。



グループで本を探す生徒たち



「わくわく図書館」のテーマ・カードに沿って選書

取組・活動の工夫や特徴

- 「くじ引きによって与えられたテーマに沿って選書を行う」といったゲーム的な要素を取り入れている。

- テーマに沿って選書をするために必然的に交流が生まれる。
- 実際の活動では、普段あまり馴染みのない本を敢えて選んだりする等、生徒が本選びを工夫する姿が見られた。

取組・活動の成果や今後の展望

- この活動を行うことで、これまで触れることの少なかった分類の本を手にとることができ、生徒の選書の視野が広がったと感じている。
- これまで生徒のふれる本は文学書に偏りがちだったが、哲学等の分類に興味を示す生徒も見られるなど利用する本に幅が見られ始めた。
- この取組は3年目となるが、今後、生徒自身が「〇〇図書館」といったテーマを決め、選書していけるような取組に発展させたいと考える。そのためには時間的な制約を鑑み、展開を工夫する必要がある。
- 中学生だけでなく、近隣の児童生徒が本探しに関するスキルを身に付け、調べ学習において自分の探究心を満たせるような取組となるよう、今後この取組を紹介し、町内の小学校及び中学校でも広めていきたい。このことにより、コンピューターによる検索機能を備えている学校においても、検索機能だけに頼らず、敢えて、実際に分類の棚の本を手にとることで分類全体の本を目にすることになると考える。
- 調べ学習や自由研究の入り口として、また、公共図書館等、他の図書館を利用する際の手立てとしていきたい。

